

中国国有新華農場における個と集団

東京農業大学大学院 董永杰

1.はじめに

中国の農業は一般農村部（元人民公社）の農業と国有農場の二つの形態がある。1980年代初期、一般農村部の農業改革（人民公社の集団経営から家族を経営単位とする家庭請負経営への改革）が実施されてから、国有農場でも從来の大規模集団経営から家庭農場への改革を推進した。改革によって、大規模集団経営に現れる悪平等と分配の不公平などの問題を解決し、単収の増加と農家収入のある程度の増加をもたらした。しかし、それによって農業経営に存在する問題がすべて解決できたのではなく、多くの新しい問題が出てきた。そもそも広大な耕地面積における大型機械化農業という規模の経済を具現化できる点に国有農場の比較優位性があったが、個別経営理想論による家庭農場は土地と機械の有効利用ができなく、労働生産性の低下をもたらした。家庭農場のこのような問題点を解決し、生産性を向上させるために、現在中国の国有農場では様々な試行錯誤をしながら適切な経営形態を模索している。

本報告では中国黒龍江省新華農場の事例で、国有農場の個（家庭農場）と集団（機耕隊経営）の経営実態を明らかにする。

2. 個（家庭農場）

家庭を経営単位とし、国有農場の管理下で、農地を請負って経営する経営体。

3. 集団（機耕隊）

農業機械を集団で利用し、大規模の農地を請負って経営する経営体。

4. 個と集団のメリットとデメリット

（1）個

生産意欲と土地生産性は高いが機械と農地の有効利用ができない。

（2）集団

大面积での機械の効率は高いが分配の不公平が現れる。

5. 結論と課題

経営における各部門の合理的な組合せによって、生産性の向上に有利な要因をすべて発揮するからこそ、最小の投入で最大の生産物を獲得することができる。国有農場のような独特な条件下で、個の強い意思統一による生産意欲と集団の有利性をどのように合理的に組合わせて、各地の農民の自主性にもとづいて農法条件などに従う農業経営を組織するのかが今後の課題である。